



Better Health, Brighter Future

CORPORATE PROFILE 2017

【製品情報に関する注意事項】

本会社内には、武田薬品の製品についての情報が含まれていますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではなく、また国によって異なる商標、効能、用量などで販売されている場合もあります。また、本会社内に記載されている医薬品（開発品を含む）の情報は、そのような製品を宣伝・広告するものではありません。会社案内に記載されている製品に関する情報は、医学的アドバイスの提供を目的とするものではなく、決して、医師その他医療従事者によるアドバイスの代わりになるものではありません。

「アイクルシグ/Iclusig」、「アリナミン/Alinamin」、「アルンブリグ/Alunbrig」、「アジルバ/Azilva」、「デクスラント/Dexilant」、「エンティビオ/Entyvio」、「ロトリガ/Lotriga」、「ルプロン/Lupron」、「ニンラーロ/Ninlaro」、「パンピタン/Panvitan」、「ロゼレム/Roserem」、「タケキヤブ/Takecab」および「ベルケイド/Velcade」は、武田薬品工業株式会社またはその子会社の日本およびその他の国における商標または商標登録です。「アドセトリス/Adcetris」は、Seattle Genetics, Inc.の米国およびカナダにおける登録商標です。「アミティーザ/Amitiza」は、Sucampo ACの米国およびその他の国における商標または登録商標です。「コパキソン/Copaxone」は、Teva Pharmaceutical Industries Ltdのイスラエルおよびその他の国における商標または登録商標です。「トリンテリックス/Trintellix」は、H.Lundbeck A/Sのデンマークおよびその他の国における商標または登録商標です。「ベクティビックス/Vectibix」は、Immune Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

武田薬品工業株式会社

CONTENTS

01 — OUR VALUES 価値観	タケダについて	3
	タケダの伝統、そして未来へ	8
02 — OUR PEOPLE 世界中の人々・仲間	社長CEOメッセージ	16
	コーポレート・ガバナンスと取締役体制	18
	タケダ・エグゼクティブ・チーム	20
	多様な人材	22
	次世代リーダー育成への取り組み	24
03 — RESEARCH & DEVELOPMENT 研究開発	研究開発への取り組み	28
	R&D パートナーシップとコラボレーション	30
04 — BUSINESS PERFORMANCE 事業の持続的成長	2016年度地域別の実質的な売上収益	34
	タケダの成長ドライバー	35
	企業の社会的責任	36
	グローバルCSRプログラム	38
	医薬品アクセスへの取り組み	40



東京から約50km、神奈川県鎌倉市と藤沢市の間に位置する湘南研究所。広々とした緑豊かな環境で、敷地内に従業員の子どものためのデイケア施設も併設。
同所はまた、『湘南ヘルス・イノベーション・パーク』の拠点となることを見据え、バイオ医薬品産業の日本におけるエコシステム醸成をリードする場としての活用が進められています。

takeda.co.jp

2017年7月現在

武田薬品工業株式会社

タケダについて

WHO WE ARE

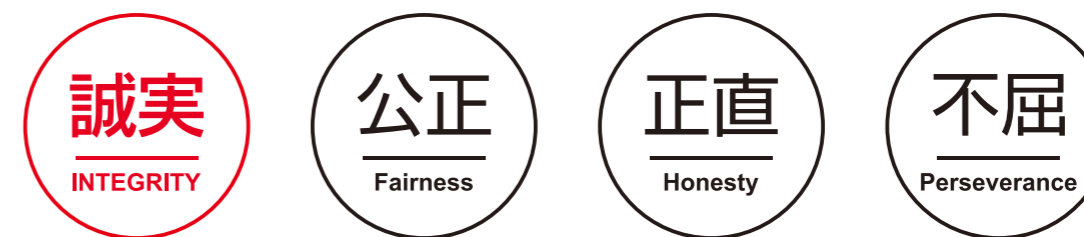
236年の歴史をもつタケダは、常に患者さんを中心に考え、イノベーション創出に立脚したグローバル製薬企業として、世界中の人々により健やかで輝かしい未来をお届けすることを目指しています。

タケダイズム、それはタケダが創業時から大切に守ってきた価値観のうえに培った経営の基本精神。この揺るぎない基本精神が、ビジョン2025*実現に向けた取り組みを支えています。

* 2025年までに実現を目指す未来の姿。2016年度に策定。

Better Health, Brighter Future

タケダイズムと私たちの優先順位



私たちは、4つの重要事項について、その優先順位に従って考え、行動や判断の基準とします。

- 1 常に患者さんを中心に考えます
- 2 社会との信頼関係を築きます
- 3 レピュテーションを向上させます
- 4 1, 2, 3を実現したうえで、事業を発展させます

01 OUR VALUES

価値観

タケダイズムと私たちの優先順位



神戸市から約7km東にある武田資料館（衛弁居・かんそうきょ）は、1932年に六代目長兵衛の住居として建てられました。外観は英国のチューダー様式を基調としていますが、内部構造は日本独自の伝統的な木造建築で造られており、地震に耐えうる柔軟性と強度を備えています。

タケダの伝統、そして未来へ

OUR HERITAGE, OUR FUTURE

革新的な医薬品・ワクチンの創出を通じて患者さんのニーズに応える

初代近江屋長兵衛が大阪で和漢薬の商いを始めたのは1781年。高い品質の薬を提供し続けることにこだわり抜き、いかなるときも自らの仕事に誠実に取り組むという創業者が遺した事業のあるべき姿勢は、タケダの経営哲学として深く根付いており、今日まで継承されています。



くすりの町、道修町^{どしやまち}

大阪・道修町は、タケダ創業の江戸時代から全国でも指折りの貿易港に近く、薬種取引の一大中心地でした。初代近江屋長兵衛は、14歳の時、この道修町の薬種仲買商へ奉公に出されました。その勤勉な働きぶりが認められ、後にのれん分けを許されることになりました。

京都薬用植物園における生物多様性保全への取り組み

1933年の設立以来、世界各地から薬用・有用植物を収集栽培し、絶滅危惧種を含む植物を未来につなぐ保全活動や研究活動を続けています。保有する約2,600種の植物のうち、約200種が絶滅危惧種です。(2017年6月末時点)

FOUNDATION

初代近江屋長兵衛が大阪で薬種仲買商を始め、高品質の薬を提供

1781

PRODUCTION

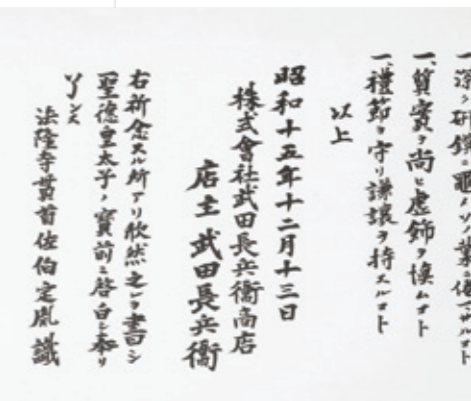
自社工場で製薬事業を開始

1895

TAKEDA GARDEN FOR MEDICINAL PLANT CONSERVATION

「京都薬用植物園」を開設し、世界各地の薬用・有用植物を収集・活用

1933



1871

INTERNATIONAL TRADE

洋薬（西洋医薬品）の輸入を開始

1914

RESEARCH

タケダ研究部を設立、研究活動を開始

1940

“NORI” PRINCIPLES

タケダイズムの礎となる「規(のり)」を制定

「規(のり)」五代目長兵衛が定めた社是

企業の社会的責任を重んじ、事業の根幹とは人にある、と明記したこの社是が示す理念は、今日の経営の基本精神にも脈々と受け継がれています。

「規(のり)」が示す5つの指針の要点

- 公に奉ずること
- 質実を尊ぶこと
- 力を合わせること
- 礼節を守ること
- 深く研鑽に努めること

がん撲滅を目指して創薬イノベーションを加速

がん領域におけるグローバルリーダーを目指すタケダは、バイオベンチャーだったミレニアム社を統合し、同領域の研究開発力や、がん領域のみならず炎症性疾患領域の新薬候補群をさらに強化しました。当社の代表的なグローバル製品となった革新的新薬である「エンティビオ」(ペドリスマブ)や「ニラロー」(イキサゾミブ)はミレニアム社が創製したものです。

PANVITAN®

日本初の総合ビタミン剤「パンビタン」を発売

1950

SHOSHISHA FOUNDATION

優秀な学生を支援し将来の社会に貢献できるよう、育英事業を目的とする「尚志社」を設立

1960

TAKEDA SCIENCE FOUNDATION

有望な研究および科学技術の助成振興のため「武田科学振興財団」を設立

1963

MILLENNIUM

バイオベンチャーの米国ミレニアム社を買収し、がん領域を強化

2008

TAKEDA INITIATIVE

アフリカの保健医療人材の育成を支援する「タケダ・イニシアティブ」を開始

2010

ENTYVIO®

潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「エンティビオ」を欧州・米国で発売

2014



1954

ALINAMIN®

ビタミンB1誘導体「アリナミン」を発売

1962

OUTSIDE JAPAN

海外市場に進出

1980's-1990's

GLOBALIZATION

4つの国際戦略製品「リュプロレリン」、「ランソプラゾール」、「カンデサルタン」、「ピオグリタゾン」によりグローバル事業の拡大が加速

2009

UNITED NATIONS GLOBAL COMPACT

「国連グローバル・コンパクト」に参加し、2011年には「LEADプログラム」のメンバー

2011

NYCOMED

新興国に強い販路を持つナイコメッド社を統合し、事業基盤を70カ国以上に拡大

2015

TAKEDA AND CiRA

CiRA*との共同研究プログラムT-CiRAを開始し、iPS細胞技術の臨床応用を目指す
*京都大学iPS細胞研究所

事業のグローバル展開
日本国内で製薬トップブランドとしての地位を揺るぎないものにしたタケダは、1960年代から本格的に海外事業を展開。アジア・欧州・米国で現地法人を設立し、国境を越えた創薬研究協力にも取り組みました。輸用量が増加するなかで、4つの革新的新薬を海外市場にも投入、タケダはグローバル製薬企業としての基盤を確立していきました。

ナイコメッド社の統合、グローバル化を加速
スイスの製薬会社、ナイコメッド社との統合により、日本と米国に集中していたグローバル事業を、欧州と新興国にも拡大しました。70カ国以上にタケダグループの拠点を置くことで、よりバランスのとれた地域別売り上げ・従業員構成になり、安定的かつ機動的なグローバル事業運営体制の構築を一気に進めました。

京都大学iPS細胞研究所とタケダが築いた独自の共同研究
タケダは、世界初のiPS細胞に特化した研究機関である京都大学iPS細胞研究所(CiRA)と、10年間にわたる共同研究(T-CiRA)をスタートしました。タケダの湘南研究所を拠点に最先端の科学・医療技術を集め、iPS細胞を使った革新的な細胞治療・新薬開発・新薬安全性試験の研究開発に取り組んでいます。T-CiRAプログラムは、幹細胞の研究でノーベル賞を受賞したCiRAの山中伸弥教授が指揮しています。

革新的な医薬品を創出し続けるためにビジネスモデルを変革

タケダは革新的な医薬品の創出に向けた取り組みをより一層強化するため、様々なビジネスモデルの転換を推し進めています。

日本では、ジェネリック医薬品への患者さんのニーズ、および医療費抑制への社会的要請の高まりに対応するため、テバ社との合併会社を設立し、テバ社のジェネリック医薬品とタケダの特許期間満了医薬品の日本における取り扱いを開始しました。

NINLARO®

多発性骨髄腫治療剤「ニンラロ」を米国で発売

2015

TAKEDA-TEVA

日本においてテバ社との合併会社に特許期間を満了した医薬品を承継し、革新的な新薬に集中する

2016

ARIAD

アリアド社買収により、オンコロジー（がん）領域における製品構成ならびに製品パイプライン（新薬候補物質）を固形がん領域にも拡大

2017



2016

R&D IS SHARPENED

研究開発の重点疾患領域を絞り込み、最先端のイノベーション創出を目指す

2016

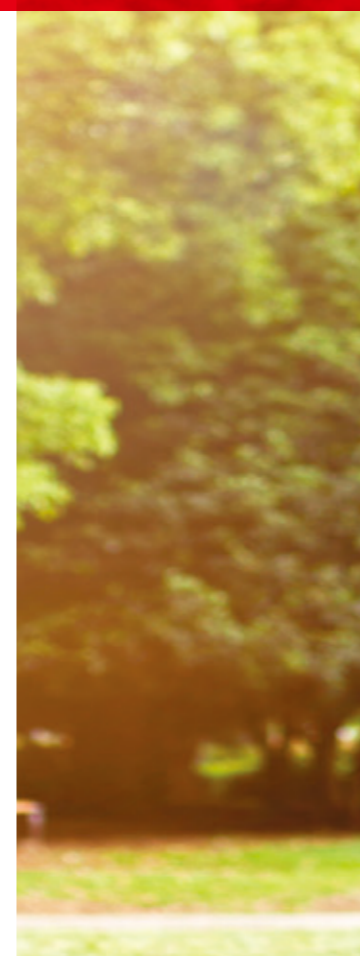
VISION 2025

タケダの目指す未来の姿として、「ビジョン2025」を制定

2017

ALUNBRIG™

肺がん治療剤「アルンブリグ」が米国で承認



TO OUR FUTURE

私たちの未来へ

VISION 2025

ビジョン2025

タケダが2025年までに実現を目指す未来の姿

タケダは、世界のあらゆる人々のニーズに貢献しています。

タケダイズムを通じ、社会やタケダの医薬品を必要とする方々からの信頼を得ています。

機動性とイノベーション、さらに高い品質に支えられ、強固なパイプラインのもと成長し続けるベスト・イン・クラスの製薬企業として認められています。





70以上の国・地域で約3万人の仲間が働いています。人々がもちよる仕事への情熱、高いスキル、豊富な知見。従業員一人ひとりの成長が、タケダの未来への原動力です。

02 OUR PEOPLE

世界中の人々・仲間

人材育成への取り組み
ダイバーシティ&インクルージョンの推進

クリストフ・ウェバー社長CEOメッセージ

A MESSAGE FROM OUR CEO

「患者さんのために、これまで以上に何ができるか？」
タケダでは、全てがこの問いかけから始まります。



タケダは、日本発グローバル製薬企業として、伝統に培われた揺るぎない価値観に基づき、患者さんにとってより価値の高い革新的な医薬品を創出し、世界中にお届けするという使命を誠実に果たすことに全力で取り組んでいます。
私たちは、昨年打ち出したビジョン2025におい

て、オンコロジー（がん）、消化器系疾患、ニューロサイエンス（神経精神疾患）、そしてワクチンの領域で、世界トップレベルになるという目標を掲げ、変革を加速し、この1年で大きな前進を遂げました。引き続き、全社一丸となりこのビジョンの実現に向けて取り組んでまいります。

クリストフ・ウェバー
代表取締役 社長 CEO

クリストフ・ウェバーについて

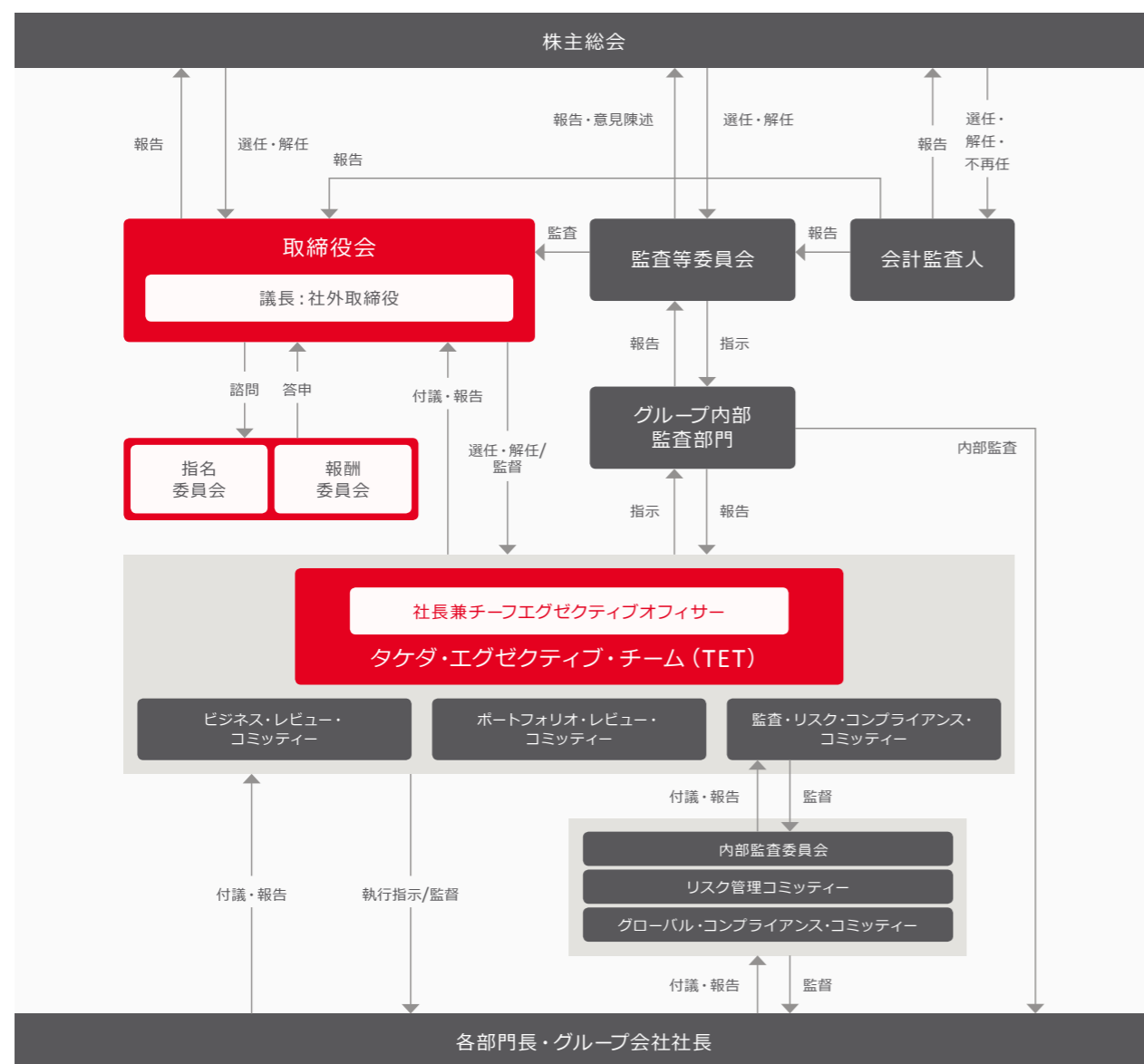
2014年入社し同年に社長就任。前職ではグラクソ・スミスクライン（GSK）の上級管理職として、GSKワクチン社の社長兼ゼネラルマネージャーや、GSKグローバルコーポレートのエグゼクティブチームメンバー等を歴任。これまでに世界9か国に在住しながら築いたマネジメント経験と真のグローバルリーダーシップをタケダにもたらす。
フランス・リヨン大学で医薬品マーケティングと会計・財政学の修士号を取得した後、薬学と薬物動態学の博士号を取得。フランス生まれ。

コーポレート・ガバナンスと取締役体制

CORPORATE GOVERNANCE AND BOARD OF DIRECTORS

タケダは、グローバルに展開する世界的製薬企業にふさわしい事業運営体制の構築に取り組んでいます。健全性と透明性が確保された迅速な意思決

定を可能とする体制の整備を進めるとともに、コンプライアンスの徹底やリスク管理を含めた内部統制の強化を図っています。



社内取締役



クリストフ・ウェバー 代表取締役社長 チーフエグゼクティブ オフィサー (CEO)	岩崎 真人 取締役 ジャパン ファーマ ビジネス ユニット プレジデント	アンドリュー・ブランブ 取締役 チーフ メディカル& サイエンティフィック オフィサー (CMSO)	ジェームス・キーナー 取締役 チーフ フィナンシャル オフィサー (CFO)
--	--	--	---

社外取締役



坂根 正弘 社外取締役 取締役会 議長 指名委員会 委員長	ミシェル・オーシnger 社外取締役	志賀 俊之 社外取締役 報酬委員会 委員長	東 恵美子 社外取締役	藤森 義明 社外取締役
--	-----------------------	-----------------------------	----------------	----------------

監査等委員である取締役



山中 康彦 取締役 監査等委員	国谷 史朗 社外取締役 監査等委員会 委員長	初川 浩司 社外取締役 監査等委員	ジャン=リュック・ブテル 社外取締役 監査等委員
-----------------------	------------------------------	-------------------------	--------------------------------

NC 指名委員会 CC 報酬委員会

取締役会の独立性をより高めるため、独立社外取締役が取締役会の議長を務めます。また、社内取締役候補者の選任や取締役（社外取締役を除く）の報酬等の妥当性と決定プロセスの透明性を担保するため、取締役会の諮問機関として、社外取締役を委員長とし、社外委員が過半数を占める指名委員会・報酬委員会を設置しています。

タケダ・エグゼクティブ・チーム

TAKEDA EXECUTIVE TEAM (TET)

日本



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長
チーフエグゼクティブ
オフィサー (CEO)



岩崎 真人
取締役
ジャパン ファーマ ビジネス
ユニット プレジデント



ジェームス・キーホー
取締役
チーフ フィナンシャル
オフィサー (CFO)



トーマス・ウォスニフスキー
グローバル
マニュファクチャリング
& サプライ オフィサー



平手 晴彦
コーポレート・
コミュニケーションズ&
パブリックアフェアーズ
オフィサー



中川 仁敬
グローバル
ジェネラルカウンセル



デイビッド・オズボーン
グローバル
HR オフィサー



ジャйлズ・プラットフォード
ヨーロッパ・カナダ ビジネス
ユニット プレジデント

スイス

米国



アンドリュー・ブランブ
取締役
チーフ メディカル
& サイエンティフィック
オフィサー (CMSO)



クリストフ・ピアンキ
グローバル オンコロジー
ビジネス ユニット
プレジデント



ジェラード・グレコ
グローバル
クオリティ オフィサー



ラモナ・セケイラ
US ビジネス
ユニット プレジデント



ラジーヴ・ヴェンカヤ
グローバル ワクチン
ビジネス ユニット プレジデント

シンガポール



リカルド・マレック
エマージング マーケット
ビジネス ユニット
プレジデント

タケダ・エグゼクティブ・チーム (TET) は、社長 CEOであるクリストフ・ウェバーと、社長CEOへのレポートラインを有するメンバーから構成され、各メンバーは、タケダグループの経理・財務、人事、

法務、広報、研究開発、製造・品質の各機能ならびに日本、米国、欧州・カナダ、新興国の各販売地域およびオンコロジー、ワクチンの各専門領域のビジネスユニットを統括しています。

* 国名は拠点、国旗は出身国を示しています。

多様な人材

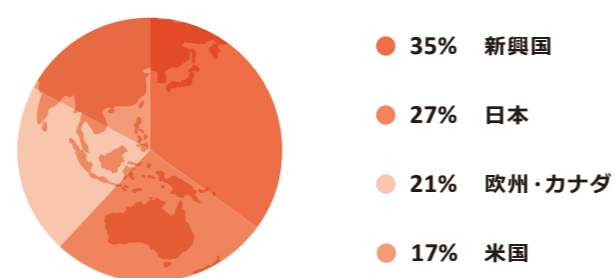
EMBRACING DIVERSITY & INCLUSION

イノベーションに立脚した研究開発型企業である
タケダにとって、組織に高い創造性や柔軟性、対応
力をもたらすダイバーシティ&インクルージョン (D
&I) の推進はきわめて重要です。
タケダは、性別・年齢・障がい・国籍・人種・性的

指向、さらには性自認・宗教・経験・信念・価値観・
ライフスタイルにかかわらず、従業員一人ひとりに
それぞれの能力と熱意に応じた成長の機会を提供
できる企業であることを目指しています。

従業員の多様性がもたらす
ユニークな視点を活かし、
世界中の患者さんにより一層貢献する

タケダの地域別従業員構成比



70カ国以上の国・地域に
タケダグループの拠点を有しています



3万人の従業員が
世界中で働いています



30を超える言語・方言が
話されています

多様性推進への取り組み

- 女性従業員同士でキャリア形成をサポートし合える
ネットワーク「はなみずき」(日本)
- 高パフォーマンスを発揮する従業員の早期昇進を
推進(日本)
- それぞれが働きやすい時間や場所で働けるフレキシ
ブル・ワークスタイル・プログラム(日本)



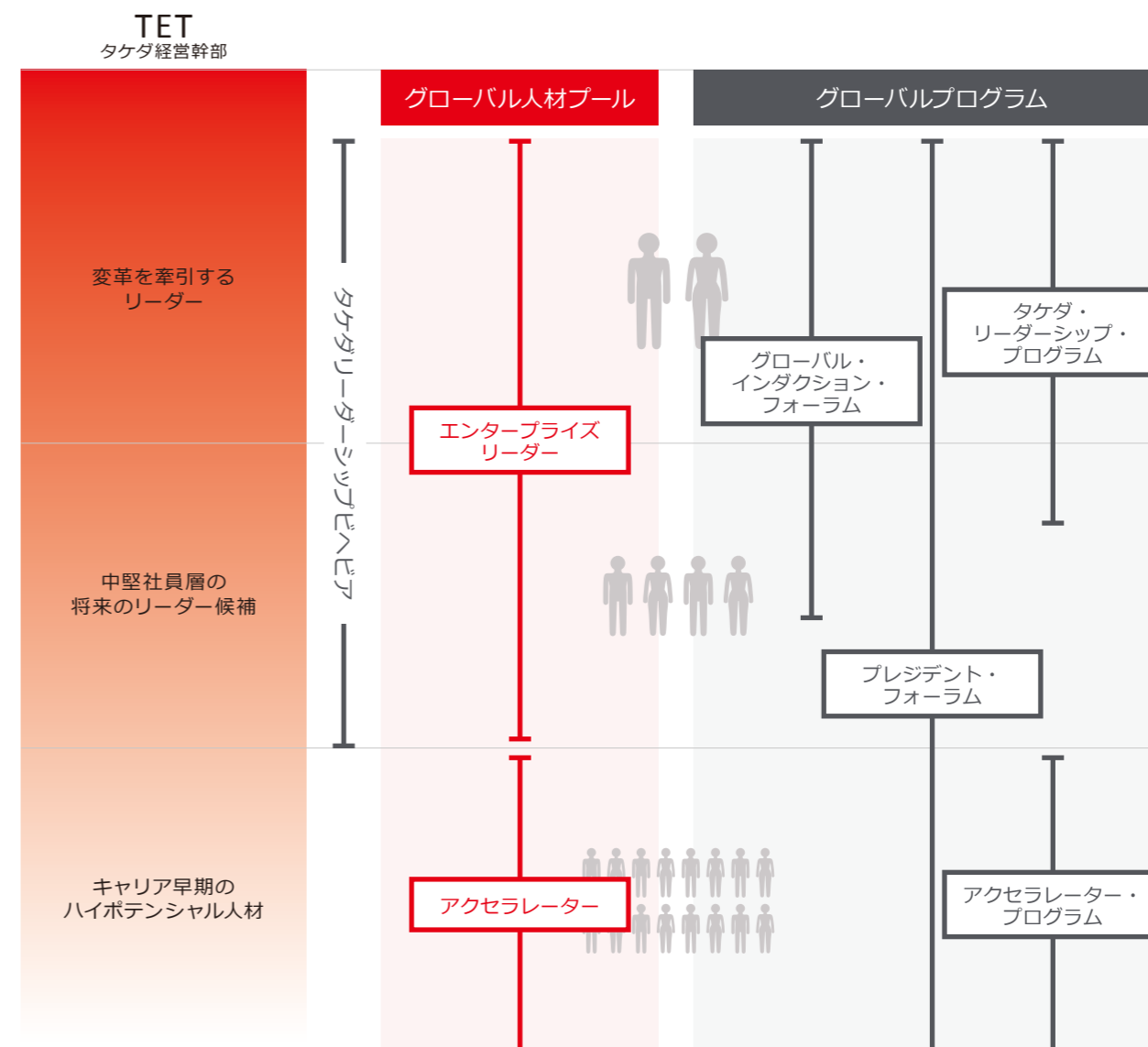
次世代リーダー育成への取り組み

TALENT DEVELOPMENT

一人ひとりの成長が強い組織を作る

タケダでは、医薬品を通じて人々のいのちに貢献するという高い志のもと、仲間とともに切磋琢磨する機会にあふれた職場環境を提供しています。

一人ひとりのスキルや知識をさらに高める人材育成プログラムや、未来のタケダ、さらには製薬業界を牽引するグローバルリーダー育成プログラムに継続的かつ戦略的に取り組んでいます。



部門・機能・地域ごとのリーダーシップ開発コースおよび人材育成プログラムも別途設定
(例: 研究開発・ファイナンス・新興国事業など)

タケダの主要な人材育成プログラムと育成フォーカス

タケダリーダーシップビヘビア

変革のリーダーシップに求められる要素

プレジデント・フォーラム

当事業を牽引する未来のリーダーを現経営幹部が育成

タケダ・リーダーシップ・プログラム

当事業について社内外の視点から議論することを通じて、リーダーシップ能力を向上

アクセラレーター・プログラム

高いポテンシャルをもつ従業員の国際的かつ部門横断的なキャリア構築を促す

グローバル・インダクション・フォーラム

最近入社したシニアリーダーへの入社研修

03 RESEARCH & DEVELOPMENT

研究開発

イノベーションで、世界を変える



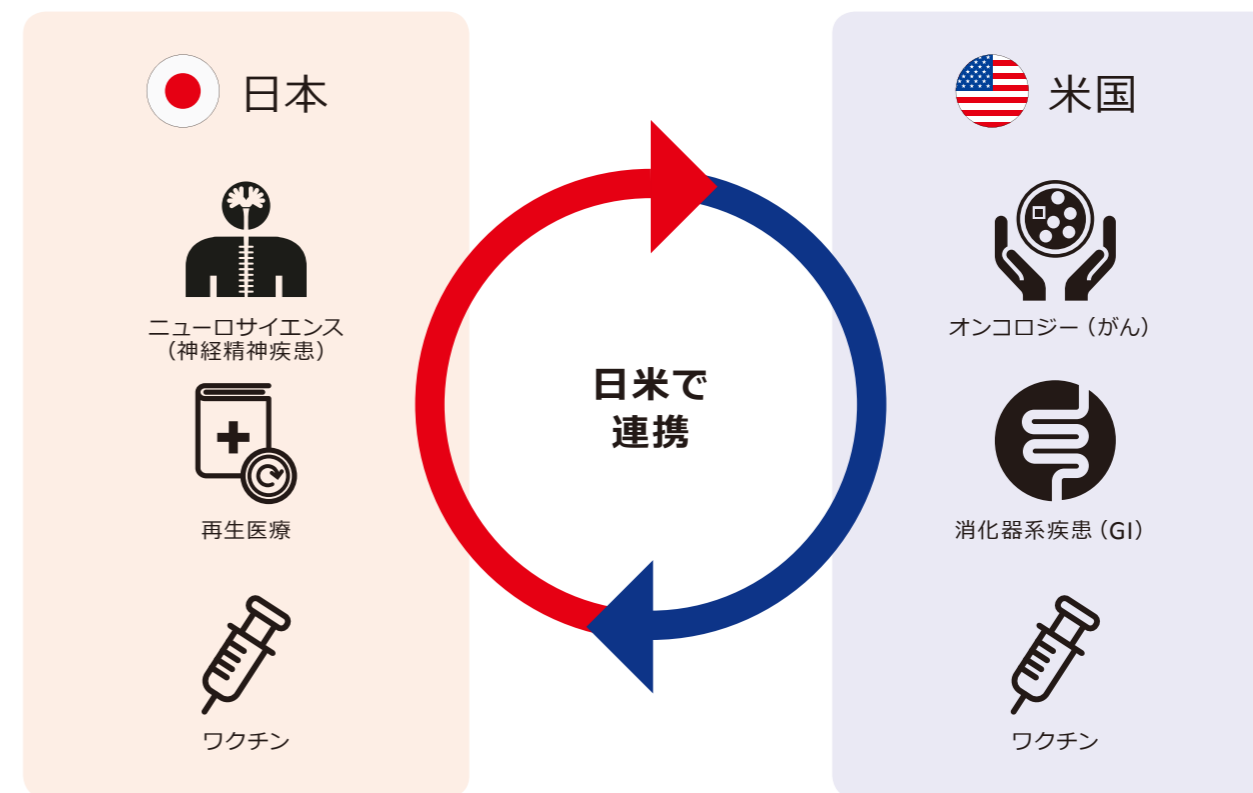
イノベーションを創出することが、タケダR&Dの使命です。私たちの研究所から世界中の患者さんに革新的な医薬品をお届けすることを目指し、創薬の研究開発に取り組んでいます。

研究開発への取り組み

OUR RESEARCH

領域を絞って専門性を強化し、患者さんのニーズに応える真のイノベーション創出に挑戦し続けます。オンコロジー（がん）、消化器系疾患（GI）、ニューロサイエンス（神経精神疾患）の三つの重点疾患領域に絞りこみ、真にイノベティブ（革新的）な医

薬品を創出するための研究活動に取り組んでいます。また、世界トップレベルのワクチン開発力を生かし、新規開発技術や最先端を走るパートナーとともに、公衆衛生の向上にも貢献していきます。



オンコロジー（がん）

世界中のがん患者さんによりよい未来をもたらす革新的な新薬をお届けするために、あくなき情熱をもって科学とイノベーションの探求に取り組んでいます。患者さんへの想いを原動力に、真にイノベティブなオンコロジー（がん）の治療薬を創出し、開発し、届けていきます。



消化器系疾患（GI）

タケダは25年以上にわたり、消化器系疾患（GI）領域において、革新的な医薬品や患者支援プログラムを提供し続け、患者さんに貢献してきました。タケダは、GI領域のリーディングカンパニーとして、炎症性腸疾患、消化器系の酸関連疾患、消化管運動障害など、未だ満たされていない医療ニーズが高い疾患への取り組みを進めています。



ニューロサイエンス
（神経精神疾患）

神経・精神疾患は、メンタルヘルスに影響を与える、複雑で多面的な疾患です。この領域において、治療法がない疾患や、稀な疾患の患者さんに新たな治療薬を提供することが、私たちの使命です。



ワクチン

ワクチンは、世界の公衆衛生を飛躍的に向上させてきました。タケダでは、世界トップレベルのワクチンチームが、革新的な開発プラットフォームを活用し、また、最先端を走るパートナーとのコラボレーションを通じ、未だ満たされていない医療ニーズに応える対感染症ワクチンの開発に取り組んでいます。

R&Dパートナーシップとコラボレーション

PARTNERSHIPS AND COLLABORATIONS

タケダは、最先端を走る社外パートナーとの共同研究や提携を世界中で実施しています。患者さんのニーズが高く、かつ、当社の科学的知見・専門性のさらなる深化につながる疾患領域において、革新的な医薬品の創出に取り組めます。

戦略的 パートナーシップ

過去2年以内で50以上の
パートナーシップを締結

(2017年7月末時点)

湘南ヘルス・ イノベーション・パーク

日本の創薬R&Dのエコシステムをリードしていく

アクセリード
スコヒアファーマ
T-CiRA

上記のリストが全ての提携ではありません。

機能的提携

PRA Health Sciences
武州製薬

研究開発課題の 外部化による推進

Myovant Sciences
Cerevance
スコヒアファーマ



Takeda-CiRA Joint Program for iPS Cell Applications (T-CiRA)

京都大学iPS細胞研究所と10年間にわたる共同研究を締結、iPS細胞技術の医療応用に取り組んでいます。



タケダは、世界初のiPS細胞に特化した研究機関である京都大学iPS細胞研究所(CiRA)と、10年間にわたる共同研究(T-CiRA)をスタートしました。タケダの湘南研究所を拠点に最先端の科学・医療技術を集め、iPS細胞を使った革新的な細胞治療・新薬開発・新薬安全性試験の研究開発に取り組んでいます。

T-CiRAプログラムは、幹細胞の研究でノーベル賞を受賞したCiRAの山中伸弥教授が指揮しています。

T-CiRAは、iPS細胞技術の臨床応用を目指した共同研究プログラムです。難治性疾患などニーズの高い領域の治療に革新をもたらすことを目指しています

- がん
- 神経変性疾患
- 難治性筋疾患
- 心不全
- 1型糖尿病

また、iPS細胞を用いた創薬・細胞治療の開発にも取り組んでいます。

04 BUSINESS PERFORMANCE

事業の持続的成長

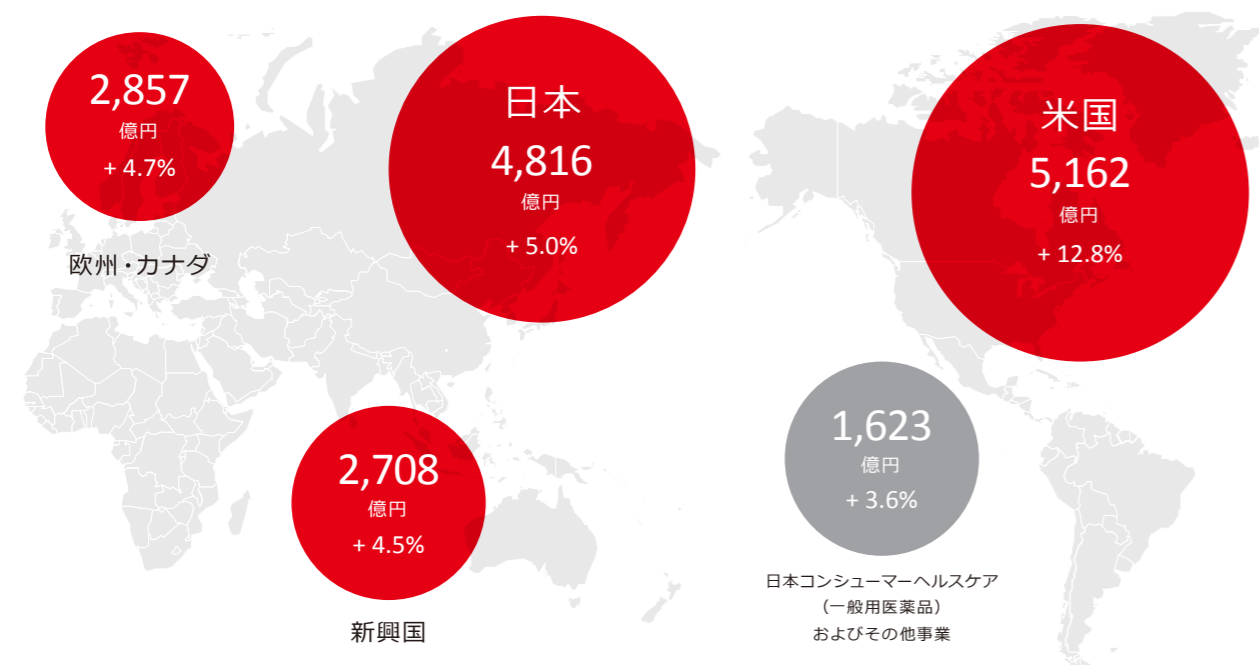
より良い事業慣行の追求こそ、
持続的成長の源泉



東京・中央区日本橋にグローバル本社
の新社屋を建設中で、2018年の春に完
成予定です。

2016年度地域別の実質的な売上収益 (%は対前年度比)

FY2016 UNDERLYING REVENUE



2016年度のグローバルでの実質的な売上収益は1兆7,167億円 (前年度比+6.9%)

2016年度業績概況

事業ポートフォリオの成長

- 実質的な売上収益の成長は+6.9%、すべての地域で増収
- 成長ドライバーの売り上げは+14.7%、エンティビオは1,465億円

研究開発パイプライン (新薬候補群) の再構築

- 研究開発体制の変革が著しく進捗
- 過去18カ月に50件以上の研究開発提携

利益率の向上

- 実質的なCore Earningsの伸長は+24.2%
- 実質的なCore Earningsの売上収益比率は+1.8ポイント
- ROEの回復:16年度6.0% (対前年度+2.1ポイント)

備考: 実質的な成長: 持続的な事業活動のパフォーマンスを実質的に把握する目的で、当期と前年同期の業績を共通の基準で比較したものであり、為替影響および事業等の売却影響を除く。Core Earnings: 売上総利益から販売費及び一般管理費、および、研究開発費を控除して算出する。さらに、非定期的もしくは本業に起因しない(ノン・コア) 事象であり、かつ、金額の大きい影響を調整する。ROE: 株主資本利益率

タケダの成長ドライバー

TAKEDA'S GROWTH DRIVERS

成長ドライバーが約15%伸長し、売上収益は増収

タケダ連結売上における成長ドライバーの比率: 55%

実質的な売上収益の成長

+14.7%



消化器系疾患 (GI)
+33.5%

主要製品

- エンティビオ
- タケキャブ
- アミティーザ
- デクスラント
- ランソプラゾール



オンコロジー (がん)
+7.5%

主要製品

- ニンラーロ
- アドセトリス
- アイクルシグ
- ベクティビックス
- リュープリン
- ベルケイド



ニューロサイエンス (神経精神疾患)
+26.7%

主要製品

- トリンテリックス
- ロゼレム
- レミニール
- コパキソン



新興国市場
+4.5%

主要市場

ロシア、ブラジル、中国市場が新興国市場の成長を牽引

企業の社会的責任

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY (CSR)

タケダのCSRは、優れた医薬品の創出を通じて患者さんに貢献することを根幹としており、事業プロセスの誠実な実践を通して社会の持続可能性を高めることに貢献していきます。

「持続可能な開発目標（SDGs*1）」の達成に向けたパートナーシップを重視

*1 Sustainable Development Goals



国連グローバル・コンパクト*2の「LEAD」メンバーとして、タケダはすべてのSDGs、特に目標3「人々の健康」の実現に取り組んでいます。

*2 持続可能な成長を実現するための世界的枠組み



PREVENTION



「予防」の観点から途上国の健康に貢献する9つのCSRプログラムを実施

LONG-TERM COMMITMENT



東日本大震災の被災地に対する寄付による長期的支援

NGOやNPOによる復興支援プログラムの運営に、約42億円の寄付金を拠出（プログラム実施期間は2011年～2020年）

PARTICIPATION



従業員を対象とした投票により、グローバルCSRプログラムを決定
8,400人を超える世界中の従業員が投票に参加し、2017年度から始まるグローバルCSRプログラムを決定（38-39ページ参照）



10年間継続する長期的な4つのCSRプログラムを実施

グローバルCSRプログラム

TAKEDA GLOBAL CSR PROGRAM

従業員による投票でグローバルCSRプログラムを決定。途上国・新興国の人々の健康に、予防の観点から貢献するプログラムを実施しています。

2016



「はしか」予防接種のグローバル展開プログラム

540万人の子どもにはしかワクチン接種を目指す。

予算: 10億円 期間: 10年間
 開始: 2016年 対象地域: アフリカ、アジア、南米の約40カ国



地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム

1,400人のヘルスワーカーの能力を強化し、約50万人に知識とサービスを提供

予算: 5億円 期間: 5年間
 開始: 2016年 対象地域: インド、バングラデシュ、ネパール、アフガニスタン



少数民族の母子を対象にした保健支援プログラム

4万人の少数民族の母子を含む15万人の地域住民への保健教育、研修、サービスを提供。

予算: 2.5億円 期間: 5年間
 開始: 2016年 対象地域: ミャンマー、ベトナム、ラオス

2017



「人生最初の1000日」への保健/栄養プログラム

のべ130万人の母子に質の高い医療サービスへのアクセスや栄養を支援。

予算: 10億円 期間: 5年間
 開始: 2017年 対象地域: ベナン、マダガスカル、ルワンダ



南スーダン・シリア難民を対象とした包括的保健プログラム

予算: 10億円 期間: 5年間
 開始: 2017年 対象地域: エチオピア、ウガンダ、スーダン、南スーダン、エジプト、ヨルダン、レバノン



アフリカの妊産婦と女性の命を守る～持続可能なコミュニティ主体の保健推進プログラム

予算: 7.5億円 期間: 5年間
 開始: 2017年 対象地域: ケニア、タンザニア、ザンビア、ガーナ

医薬品アクセスへの取り組み

ACCESS TO MEDICINES



医薬品アクセス

タケダは、医療制度の整備が十分でなく、アンメットメディカルニーズ（満たされていない医療ニーズ）が最も高い地域の患者さんへの医薬品アクセス向上に取り組んでいます。

第6回アフリカ開発会議（TICAD VI、2016年8月ケニアで開催）に合わせ、タケダのAtMストラテジーを策定し、ナイロビに拠点を設立。

2017年6月時点のハイライト

サハラ以南のアフリカ諸国での取り組み

サハラ以南のアフリカ諸国で、非営利的アプローチによる取り組みを始めました。日本発の製薬企業としては初の自社による現地拠点をケニアのナイロビに開設しました。

患者支援プログラム（PAPs）

治療費の支払い能力にかかわらず革新的な医薬品を処方された患者さんに提供するための患者支援プログラム（PAPs）に取り組んでいます。

"Blueprint for Success"会議を主催

100を超えるグローバルヘルス専門家を集めた会議"Blueprint for Success"を主催し、人々のいのちを救う医薬品アクセスを向上させるパートナーシップモデルについて議論を深めました。

**地球上のどこでも、
患者さんのニーズに応じていく
タケダは、パートナーシップを通じて
グローバルヘルスケア向上に貢献していきます。**

**2017年1月、スイス ダボスで開催された世界経済フォーラムで
公表された以下の取り組みに参画しています。**



ACCESS ACCELERATED（アクセスアクセラレーテッド）は、低所得の国・地域における非感染症疾患（がん、高血圧、糖尿病など）の予防に向けた取り組みとして初の、マルチステークホルダーによるパートナーシップです。



「感染症流行対策イノベーション連合（CEPI）」は、市場メカニズムだけでは実現されにくい感染症の予防ワクチン開発のための資金調達や開発支援を目標とする、公的・私的・慈善・市民団体の連合による国際的な取り組みです。

タケダは、236年の歴史と伝統を胸に、
これからも、果たすべき使命に向かって
ひたむきに歩んでいきます。

たったひとつの「いのち」が紡ぐ、
たったひとつの人生のものがたりに、
もっと健やかで明るい未来をお届けするために、
今まで以上に、何ができるか？
タケダの挑戦は、続きます。

Better Health, Brighter Future

最新情報は、ウェブサイトをご覧ください。

会社情報: Takeda.co.jp/company

ニューズルーム: Takeda.co.jp/news

タケダのポジション: Takeda.co.jp/company/position

お問い合わせ先

Osaka

〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
Tel: 06-6204-2111
Fax: 06-6204-2880

Tokyo

〒103-8668 東京都中央区日本橋二丁目12番10号
Tel: 03-3278-2111
Fax: 03-3278-2000

URL

Takeda.co.jp

